



なかじま ひでお
中島 英雄 さん（蒔田）

木々に囲まれてとても涼しく、まるで別世界でした。今度ソロキャンプにも挑戦したいです。

大自然の中、鳥のさえずりや川のせせらぎなどを聞きながら、癒やしの時間を満喫できるキャンプ。新型コロナウイルスの感染対策をしながら、友人同士や一人でも楽しめるアウトドアレジャーとして、全国各地に新しいキャンプ場がオープンするなど、市民権を得てきています。このようにブームを超え、カルチャーとして定着した背景には、芸能人やユーチューバーがキャンプの様子を配信したり、キャンプをテーマにしたアニメが人気を博したりしたことが挙げられると思います。アウトドア派の私も興味があるため、市で運営する「宮山ふるさとふれあい公園」を取材しました。

ブームからカルチャーへ キャンプ人気急上昇



宮山ふるさとふれあい公園のホームページはこちら

自然豊かなアウトドア体験施設

「宮山ふるさとふれあい公園」は、平成6年、山の斜面を利用して開園しました。その敷地内でも高い位置に造られたキャンプ場からは、日光連山が見られるなど素晴らしい景色を堪能できます。その他にも、バーベキュー場、ピクニック広場、ジャブジャブ池などのアウトドア施設が充実していて、子どもから大人まで楽しめる施設となっています。

オープン当初は、常設テントサイトがありました。しかし、施設の老朽化に伴い一昨年に撤去され、更地となっていました。その後、新たなキャンプ場として整備するために、跡地の一面に白い砂を敷き、広く自由にテントを張れるスペースを整備したことで、ソロキャンプから大人数キャンプが可能になり、誰でも楽しめる施設へと変貌を遂げました。また、キャンプ遊びを満喫しようとすると、持参品は何かと多くなってしまう。そこで気になるのが

宮山ふるさとふれあい公園 全体マップ



荷物の搬入についてですが、キャンプサイトに車の乗り入れができるので、大荷物でも安心です。市から公園全般の管理を委託されている市シルバー人材センターの諏訪良一さんは「近年のキャンプブームのおかげで利用者が増え、利用できる期間も4月から12月まで拡大しました。桜や紫陽花など四季の花が咲くので、花見キャンプが楽しめます。これからも、みんなが楽しく利用できるようなルールを守って使っていてほしいです」と話します。私たちが安心して利用できるのは、諏訪さんたちの環境整備などの努力

▼小高い丘に造られたキャンプ場から見える風景



▲大自然の中、バーベキューを満喫するみなさん



取材を終えて

あつてこそです。農産物直売所も併設されている「宮山ふるさとふれあい公園」。今まで踏み出せなかった人も、この機会にぜひキャンプに挑戦してみたいかがでしょうか。また「来たときよりも美しく」の精神で、みんなが気持ちよくキャンプができるよう、限りある自然を守り大切にしていきたい。

問

宮山ふるさとふれあい公園

☎ 52・3610